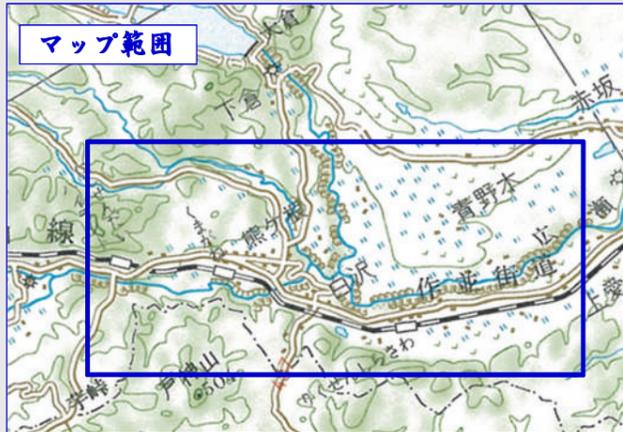


関山街道さんぽマップ

全5葉のうち(その3)
〔上愛子下十三枚田～作並棒目木〕



制作/関山街道フォーラム協議会
土の道マップ部会
協力/みやぎ街道交流会

【縮尺】おおよそ1:25,000 (4cmで約1km)



〔関山街道さんぽマップについて〕

- このマップは、八幡地区から関山峠を越えた区間までの関山街道沿線の歴史などの地域資源を探索出来るように作成したものです。(なお、関山峠を越えた区間からは、今後作成することを検討しています。)
- 各地区で活動する団体が作成したそれぞれのマップ等を参考に統一的な様式でとりまとめたものです。

【参考資料】

- 「歴史探訪 関山街道を歩く」(平川新編集、2009年)
- 「仙台領の街道」(高倉淳著、2006年)
- 「宮城地区雑記控(増補版)」(宮城地区郷土史探訪会、2012年)
- 「宮城西探訪 熊ヶ根ぶらり歩き」(平成17年度宮城西市民センター 宮城西探訪講座)

〔関山街道フォーラム協議会について〕

- 関山街道フォーラム協議会は、関山街道沿線で活動している市民活動団体・企業・行政等が、地域の自然、歴史、文化、風土等の豊かな資源を掘り起こし、活用しながら地域活性化を目指している団体です。
- 部会を設けて、「土の道部会」はマップ作成や探訪会等の事業を、「鉄の道部会」は関山街道と並行して走る関山線に焦点をあてた事業に取り組んでいます。

【地図の複製承認】

- この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地形図、5万分1地形図及び2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25 東複、第50号)
- うち拡大図は、仙台市長の承認を得て、同市発行の1万分1都市計画基本図を複製したものである。(承認番号 平成26年1月10日 H25都計都第1531号)
- 第三者がこの地図を複製する場合は、国土地理院長、仙台市長の承認が必要である。(平成26年1月制作)

H19 ふどうだき(ぼうめきのたき)
不動滝(棒目木の滝) 仙台ハイランド入口の橋手前の左側公園から対岸を見ると広瀬川に落ち込む滝が見える。水量はさほど多く無いが高さは40~50m程ある。

H20 ほうめいじゅうはつたき
鳳鳴四十八滝 仙台ハイランド入口の交差点より国道48号をやや行った左側に広瀬川の峡谷を大小の滝が重なり合い、鎌倉山を背景に見事な滝を眺められる。

H14 大倉ダム
高柵新道の隧道
小倉神社

H13 和光院不動明王
関所神社
HEバス停 仙台ハイランド入口
関南側の古碑と瀧

H12 鳳鳴四十八滝
不動滝(棒目木の滝)

H12 くまのじんじゃ
熊野神社 『安永風土記』によれば「当村の儀熊野神社有之候に付熊ヶ根と名付候由伝候」とあり熊ヶ根の地名の由来と云われる。今も民家の間に残る。

H15 せきしゅうらく
関集落 地名が関一番から関三番となっており、戦国時代に関所があった可能性が高い。関所自体は山筋の道から出てきた辺りの一番造りやすい場所に設けられたと思われる。

H9 くまがねじょうあと
熊ヶ根城跡 野川坂を登り興禅寺手前の台地が館跡。現在は荒れ果て、土塁が僅かに確認される。国分氏の家臣・六丁目氏の館があった。

H11 くまがねしゆく
熊ヶ根宿 興禅寺前の街道を真っ直ぐに町並みを貫く道が旧街道。『安永風土記』によれば、当時熊ヶ根村は35軒、人口230人だが、町場は24軒だった。馬が31頭おり、駅馬のためかもしれない。

H3 りゅうかくじ
龍角寺 曹洞宗。寛永8(1631)年江巖寺の2世旦庵光朔和尚によって開山された。本堂裏の南西角から西へ約20mには、仙台唯一の女儒者と言われた高橋玉蕉の墓がある。

H6 どうはんのこどう
道半の古道 国道から道半の集落に入って右へ大きくカーブする道は旧国道。左の真っ直ぐに集落の中を通るのが旧街道で、集落を過ぎてから野川橋までの坂道は街道の旧観を良く残している。

H区域拡大図(熊ヶ根地区)

塩流神社 H14
夜まわり百周年記念碑
熊ヶ根宿
興禅寺 H11
熊野神社 H13
熊ヶ根城跡 H12
カゴ岩 H10
道半の古道 H8
道半の古碑群 H5
天野橋 H7
JR熊ヶ根駅
青下水源地
野川遺跡
十三仏
赤生木の古碑群
龍角寺
瑞応寺跡(廃寺)

I11 ごらくさんさいほうじ
極楽山西方寺

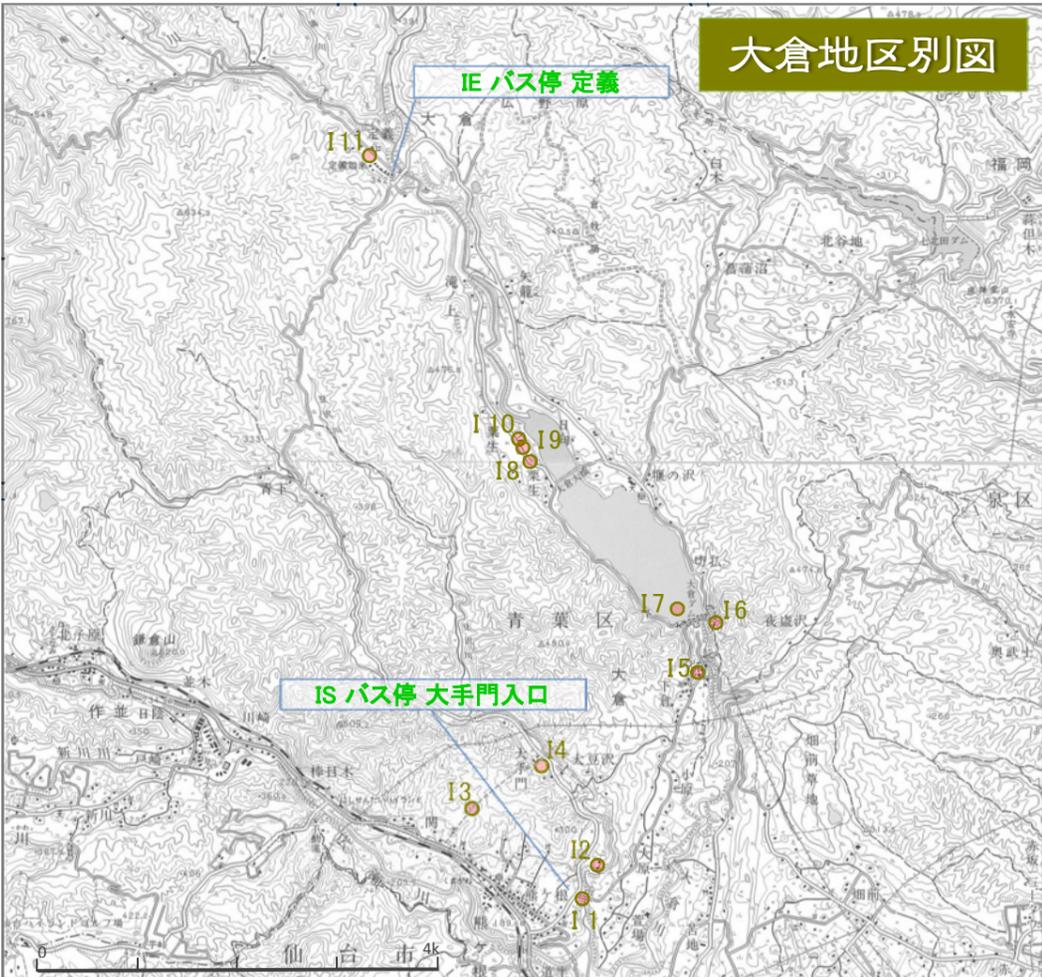
浄土宗。壇ノ浦で平家は滅亡。平重盛の重臣・肥後守平貞能(さだよし)が重盛より託された阿彌陀如来の宝軸を守り、この地に隠れて、名も定義(じょうげ)と改めた。建久9(1198)年この地で亡くなり、その遺言により、墓の上に小堂を建て宝軸を安置したのが始まり。現在の廟は昭和2年に建立された。

関山街道散歩マップの解説
(上愛子下十三枚田～作並棒目木)

- 1) 街道沿線の神社仏閣の歴史資源などをH～Iのモデルコースに分けてそれぞれに番号を付して、おもて面の地図上の位置・番号等と対比しています。
- 2) 各コースとおおむねの地区名は次のとおりです。
Hコース(上愛子下十三枚田～熊ヶ根棒目木)
Iコース(大倉地区)
- 3) なお、下記資源の写真・説明は地図面に記載しています。
H3(龍角寺)、H6(道半の古道)、H9(熊ヶ根城跡)、H11(熊ヶ根宿)、H12(熊野神社)、H15(関集落)、H19(不動滝)、H20(鳳鳴四十八滝)、I11(極楽山西方寺)

◆各モデルコースの距離

- Hコース (HSバス停⇒E1～E20⇒HEバス停) 約10km
(H7天野橋・H14塩流神社を除く)
※HコースのH4までは前区間マップその2(落合～上愛子下遠野原)のGコースと一体の探訪をお勧めします。
- Iコース (ISバス停⇒I1～I11⇒IEバス停) 約12.0km
(I3捻木道・I6高柵新道の隧道を除く)
- ※1 各コースはモデルとして参考に設定したものです。
※2 距離は地図上で測定したおおむねの値です。
※3 各コースの起・終点は近隣のバス停としています。
※4 地図上のバス停名の頭の記号は次のとおりです。
例) HS(Hコースの起点バス停)、HE(Hコースの終点バス停)



大倉地区別図



I1
のがわいせき
野川遺跡
平成3年、青下橋架替時の発掘調査実施。約1万年前の縄文草創期と後期の遺跡。縄文時代としては市内最古。石器、材料の頁岩が大量に出土し、話題となり、その経緯が橋の親柱に記されている。



I2
あおしたすいげんち
青下水源池
昭和9年に完成した登録有形文化財の旧管理事務所、仙台市水道給水70周年の水道記念館があり、水道の仕組みや歴史などについてわかりやすく展示している。



H1
じゅうさんほとけ
十三仏
十三枚田の国道と脇道の角に十三個の丸石仏がある。道標は明和6(1769)年のもの、「右八ふたくち 左八里前道」と記されている。里前道とは、六郷や七郷に向かう道をいうらしい。



H2
ずいおうじあと(はいじ)
瑞応寺跡(廃寺)
寛永13(1636)年に仙台藩出入司の山口内記重如が開いた寺。内記は2代藩主忠宗より愛子村を与えられた。「山口内記重如号瑞応寺」など33基の墓碑が建っている。(個人敷地内につき留意)



H4
あこぎのこひぐん
赤生木の古碑群
文化11(1814)年の月山・湯殿山・羽黒山・供養塔など作並街道白沢郵便局前道路沿いに11基ならんで立っている。



H5
どはんのこひぐん
道半の古碑群
文政3(1820)年の出羽三山碑や昭和37年の足尾銅山碑など8基の碑がある。



H7
あまのばし
天野橋
仙山線が作並まで開通。定義への参拝客の便を図ろうと天野政吉氏が昭和8年に青下川に橋を架け、広瀬川の断崖に道を造り、昭和35年頃までバスを運行した。橋は朽ちてはいるが現存。



H8
かごいわ
カゴ岩
藩政時代、熊ヶ根側より白沢側に灌漑用水を引くためサイホンを利用した隧道を掘ろうとし、失敗した潜穴の跡。熊ヶ根橋下流左岸にその跡が残る。



H10
こうぜんじ
興禅寺
曹洞宗。天正17(1589)年僧全応の開基と云われているが、喜州和尚開山の説もあり。境内には六丁目隆重夫妻、国分盛重の墓がある。



H13
よまわりひゃしゅうねんきねんひ
夜まわり百周年記念碑
塩流神社の参道入口に神社碑と並んで立つ。防火のために明治20年頃より集落輪番で夜回りを行ってきた。記念碑は平成元年に建てた。



I3
ねきどう
捻木道
平貞能や義経一行も新川から関集落を経て、この道を通ったと云われる伝説のある古道である。関側からは石器などが見つかるといわれるが、年代も城の由来も不明。



I4
おおともん
大手門
捻木道の出口にある集落の地名。現在の豆沢橋の手前に城があり、その大手門が地名の由来と云われているが、年代も城の由来も不明。



I5
おぐらじんじゃ
小倉神社
大倉ダムの下公園入り口に建つ。平貞能が平家の尊崇する式内社小倉神社を分霊したのが始まりといわれ、その後土地の豪族大倉氏が祀ってきた。



I6
たかさきんどう
高柵新道の隧道
大倉から仙台への運搬路として新道が作られた際、明治17年工兵隊の力を借り完成。大倉川に架かる新天狗橋を渡りすぐ左折、隧道までは今でも行ける。



F14
えんりゅうじんじゃ
塩流神社
旧街道沿いに石碑が立っており、ここから約700m先、途中長い石段を登り赤沢山の中腹に昭和50年に再建された本殿、長床、鐘楼が立つ、村の鎮守。



H16
わこういんぶどうみょうおう
和光院不動明王
和光院は廃寺扱い。赤い鳥居の奥にお堂があり和光院不動明王が祀られている。早坂家の屋敷内に祀られていたが、昭和48年に家屋改築のため現在地に移された。



H17
せきしよじんじゃ
関所神社
和光院前の旧道の数10m先に石碑が数基ある。ここから細い石の階段を登ると関所神社があり、集落に関所があったと云われる。関集落の守り神。



H18
せきみなみがわ
関南側の古碑と瀧
和光院の前方広瀬川の崖近くに宝暦12(1762)年の不動尊と和光院栄長の名が刻まれた元禄10(1697)年の石碑がある。



I7
おくらだむ
大倉ダム
昭和36年多目的ダムとして完成。日本初のダブルアーチ式コンクリートダムとして、美しい姿を見せる。国が直轄で施工し、宮城県が管理している。



I8
あかもん
赤門
ふるさとセンターの手前に赤い柱が立つ。ダムが出来た以前は定義への参詣道であった。バスも橋を渡らず大倉川の左側を真っ直ぐに走った。



I9
ならいがわ
西風側疎水記念碑
ふるさとセンター駐車場南口の側に立つ。瀧の上、栗生地区の灌漑のため定義から瀧の上まで約1.8kmに及び潜穴が明治24年完成し、現在も使用している。



I10
おくらふるさと
大倉ふるさとセンター
平成12年旧大倉中学校の跡地に地域活性化の拠点として開設された。赤生木の旧石垣家を移転し、自由に見学できる。そば処としても利用している。